２０１９年（令和元年）６月１１日　火曜日
デーリー東北　９面　掲載

八学大サヨナラ負け

全日本大学野球

第68回全日本大学野球選手権は10日、東京ドームで1回戦4試合を行い、北東北大学野球連盟代表として、7年ぶり8度目の出場となった八学大は、仏教大と対戦し3－4でサヨナラ負けを喫した。神宮球場で予定されていた1回戦3試合は、雨天順延となった。（林泰輔）

▽1回戦

八学大	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
仏教大	0	0	0	0	0	0	0	0	4×	4

（八）大道、中道－大向、山本
（仏）中山怜、木下－坪倉
▽本塁打　武岡2（八）
▽三塁打　伊藤（八）▽暴投　木下（仏）
▽試合時間　2時間22分
（球審＝岸上、塁審＝平田、高橋、安達）

【評】八学大は3点リードで迎えた九回、無失点の力投を続けてきた先発大道が、内野安打と2四球で1死満塁のピンチを招いて降板。継投した中道は三振で2死としたが、左前適時打と四球押し出しで2失点。さらに、相手中前打で三走のほか二走の生還も許し、無念のサヨナラ負けを喫した。

走路妨害、無念の結末

あとアウト一つ。八学大がつかみかけた勝利が、力投を続けてきた先発右腕・大道温貴が土壇場で崩れ、救援の左腕・中道佑哉も踏ん張れず、痛恨のサヨナラ負け。正村公弘監督は「完全に継投のタイミングを間違った。遅かった」と、きっぱり負けを認めた。

3点リードで迎えた九回の守り。内野安打に失策が絡み、「疲労もあった」（大道）中で制球も乱れて満塁とされた。マウンドを託された中道は持ち味を出そうと果敢にコーナーを突いたが、勢いに乗る相手打線を止められなかった。

最後は相手の中前適時打で三走がかえり、本塁を狙った二走も捕手の走路妨害との判定で生還した。微妙な形とはいえ、無念の結末。中道は試合後のダッグアウトで、「最後に打たれたのは外角低めの直球。失投ではなかった。こんな場面の継投をブルペンでも想定していたのに、抑えられなかった」と目を赤く腫らし、悔しさをにじませた。

7年ぶりにたどり着いた大舞台。勝利には届かなかったが、収穫もあった。右腕大道は常時140㌔を超える切れのある直球を武器に10三振。大道は「勝ちたかったが、自信にはなった」と前を向いた。

ナインが次に見据えるのは、神宮大会につながる秋季リーグ戦。北畠栞人主将は「守りにミスがあっては競った試合では勝てない。失策をより少なくすることを心掛け、また全国大会に戻ってくる」と、雪辱を誓った。（林泰輔）

主砲意地の2発

○…八学大の4番武岡大聖（3年）が、打線で一人気を吐いた。二回に中越え先制弾、四回は右越え2ラン。全打点をマークした。狙いを定めたのは、カウントを取りに来る直球。「早いカウントでも構わず振り抜こうと思っていた」と、二回は内角高めのボール球に近い直球、四回は、シュート回転して甘く入った直球を逃さず捉えた。

パワフルな打撃を全国の舞台で見せつけた主砲だが、勝利にはつながらず、無念の空砲となった。系列の八学光星高の主砲（龍世＝3年）は弟という武岡は「絶対的な4番打者になって、神宮大会に出る」と、秋季リーグ戦への意気込みを示した。

【八学大－仏教大】九回途中まで5安打10三振と力投した八学大の先発・大道温貴＝10日、東京ドーム

【八学大】　打　安　点　振　球
⑨　北畠　栞人　4　0　0　2　1
④　冨田　勇葉　3　0　0　1　0
③　松岡　武磯　3　0　0　3　1
⑦　小田日　藤川　3　0　0　2　1
DH　冨伊　向本　3　0　0　1　0
⑤　中大　山本　3　1　0　0　0
⑧　伊藤　大向　3　1　0　0　0
⑥　中大　山本　3　1　0　0　0
②　2　0　0　1　0
犠盗失併残
1　0　2　15　2　9　5　3　8　5

【仏教大】　打　安　点　振　球
⑦　中山　聡田　2　0　0　1　0
H　岡本　村倉　2　0　0　2　1
79松吉　村本　3　0　0　1　1
RD　野木　嶋井　3　0　0　2　1
⑨　八石　木岡　4　1　0　0　2
H　木坪　森本　3　0　0　2　0
7　石木　前田　4　1　0　0　2
⑤　坪森　岡本　3　0　0　2　0
④　倉本　藤本　3　0　0　0　1
HR　田本　唐本　2　0　0　0　1
⑥　本澤　辻上　3　1　0　0　0
H　本澤　辻上　3　1　0　0　1
犠盗失併残
0　0　0　2　9　3　2　7　3　1　7

	手回	打	安	振	球	失
投大	8	35	5	10	6	3
中道	⅓	5	4	2	1	1
中山怜	4	18	4	3	2	3
木下	5	17	1	5	3	0

デーリー東北新聞社提供